



平成29年5月29日
国土交通省
福島河川国道事務所

減災に向けた「地域の取組方針※」のフォローアップ ～阿武隈川上流沿川10市町村長による減災対策協議会の開催～

- 阿武隈川上流では、近年の雨の局地化・激甚化を踏まえ、今後発生しうる大規模な浸水被害に備え、6市長、2町長、2村長を交えて減災のための協議会を設置しています。
- 第3回減災対策協議会では、昨年策定した「地域の取組方針」に基づき、関係機関の対策実施状況についてフォローアップを行い、来たる出水期に備えます。

※取組方針とは…阿武隈川で今後5ヵ年で取り組むべき対策をまとめた方針（平成28年9月策定）

http://www.thr.mlit.go.jp/fukushima/abukuma_gensai/pdf/20161020housin.pdf

1. 日 時:平成29年6月1日(木)13:30～15:00
2. 場 所:ホテル 福島グリーンパレス 孔雀の間（福島市太田町13-53）
3. 議 事:(1)第3回幹事会の報告について
(2)各機関の対策実施状況のフォローアップ 等
4. 公開等:(1)本会議は公開としております。
(2)報道関係者の席を用意しております。
(3)一般の方で協議会の傍聴を希望される方は、会場の都合により数に限りがありますので先着順とさせていただきます。

《発表記者会:福島県政記者クラブ、福島市政記者クラブ、郡山記者クラブ》

＜ 問い合わせ先 ＞

国土交通省 東北地方整備局 福島河川国道事務所

TEL 024-546-4331(代表)

副所長(河川担当) 佐藤 勝美(内線 204)

調査第一課長 奥中 智行(内線 351)

第三回 阿武隈川上流大規模氾濫時の減災対策協議会

日時：平成 29 年 6 月 1 日（木）13 時 30 分

場所：ホテル福島グリーンパレス「孔雀」

司会：福島河川国道事務所 副所長

次 第

1 開 会

2 挨 拶

3 議 事

（1）幹事会の報告

（2）各機関の対策実施状況のフォローアップ

（3）その他（平成 29 年度出水期に向けての確認事項）

4 閉 会

【配付資料】

資料 1 取組経緯、 第三回幹事会の報告について

資料 2 各機関の取組実施状況について（取組事例・一覧表）

資料 3 緊急速報メールを活用した洪水情報のプッシュ型配信

資料 4 「タイムライン」に活用する防災気象情報

参考 1 協議会規約

参考 2 協議会傍聴規定

阿武隈川上流大規模氾濫時の減災対策協議会
委員名簿

福島市長

二本松市長

郡山市長

須賀川市長

伊達市長

本宮市長

国見町長

桑折町長

大玉村長

玉川村長

福島県 土木部長

〃 危機管理部長

福島地方気象台 台長

国土交通省東北地方整備局 福島河川国道事務所長

〃 摺上川ダム管理所長

〃 三春ダム管理所長

(順不同)

【参考資料】「阿武隈川上流の減災に係る取組方針」を取りまとめました

1. 概要

- 阿武隈川上流で発生しうる大規模な浸水被害に備え、隣接する自治体や県、国が連携して、減災のための目標を共有し、対策を推進するため、9月26日に「第2回 阿武隈川上流大規模氾濫時の減災対策協議会」を開催しました。
- 今般、「逃がす・防ぐ・取り戻す」ための取組を進め、防災意識向上や被害最小化を図るため、関係機関が5ヶ年で取組むべき内容を定めた「阿武隈川上流の減災に係る取組方針」を策定しました。

2. 日時／実施状況

- 日 時：平成28年9月26日(月)
- 場 所：福島テルサ 3階大会議室「あぶくま」
- 出席者：伊達市(市民生活部長)、国見町(町長)、桑折町(副町長)、福島市(市長)、二本松市(生活環境課長)、大玉村(村長)、本宮市(市長)、郡山市(副市長) 須賀川市(市長)、玉川村(村長)、福島气象台(台長)、県(土木部次長・危機対策課長)、摺上川ダム(所長)、福島河川国道事務所(所長)



会場全景(福島テルサ)

議事内容

関係機関 約60名が参加

- ・(1)幹事会の報告
- ・(2)「阿武隈川上流の減災に係る取組方針(案)」の説明
⇒説明後に意見交換、出席委員からご発言
⇒異議はなく、減災に係る取組方針を策定

3. 主な意見・コメント等

- ・ ホットラインについても国からの情報提供だけでなく、我々から問いかける場面もあっていいと思っている。双方向の情報のやりとりが必要。
- ・ ハード整備はすぐには整備が進まないであろうことを想定して、ソフト面での対策、特に行政区・町内会単位の自主防災組織の組織化の推進に努めていく。
- ・ 住民の防災意識が高まっている中で、我々が情報提供していかん、自助・公助・共助の役割分担をしっかりとっていくかが重要。
- ・ 新たなハザードマップを作成するためスピーディーに対応していく。
- ・ 今まで災害とは無縁だったが、最近はいつ災害が起きても不思議ではないため、防災無線のデジタル化に取り組んでいる。
- ・ 小学生を対象として防災・河川の関係の教育を行うことを考えており、引き続き国交省の指導もお願いしたい。
- ・ 水害を経験していない世代に対し、危機感をどうやって伝えていくかが課題。



伊達市 国見町 桑折町 福島市 二本松市



大玉村 本宮市 郡山市 須賀川市 玉川村